

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

一橋大学

前期日程

科目

英語

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	250~280点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

分量・難易度とも、引き続き高いレベルにあるが、設問数は昨年度よりもやや減った。相変わらず英文読解と英作文を中心に、英語の本格的な学力が要求されている。記述中心の形式は従来通りである。設問はオーソドックスなものが多く、一部を除いては比較的取り組みやすい。

〈特記事項・トピックス〉

①大問数は昨年までと同じ4問である。②昨年度出題された「文補充」や「キーワード付きの論述問題」は、今年度は姿を消し、オーソドックスな形式の設問ばかりになった。

〈合格への学習対策〉

英文読解は単なる「英文和訳」だけでなく、内容も深く考えながら読む訓練が必要。作文に関しては、日頃から長い英文を書いて、自分の考えを英語で的確に表現する訓練を積んでおく必要がある。この他、リスニングも含め総合力の養成を心掛けること。生半可な学力では通用しないことに変わりはない。オーソドックスな学習をたゆみなく続けていけば、必ずや道は開ける。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述・選択	読解(下線部訳・内容説明・空所選択補充)「移民について」	<ul style="list-style-type: none"> 英文和訳力と文脈把握力が要求される。 3は「2つのモデル」を50字でそろえて説明するのにやや苦勞する。 	やや難
II	記述・選択	読解(下線部訳・内容説明・空所選択補充)「フェミニズムが男女の幸福に及ぼした影響」	<ul style="list-style-type: none"> 英文和訳力と文脈把握力が要求される。 2は、解答のまとめ方に苦勞する。 4の空所補充は基本的。 	やや難
III	記述	自由英作文	<ul style="list-style-type: none"> 「ユーモア感覚は人生で最も大切なものの一つである」、「日本は豊かな国だ」、「十年後の自分自身をどう思い描くか」のうちいずれかを選んで、120から150語以内の英語で論述。 1は個人的なエピソードを交えれば書きやすくなる。 2は「豊かさ」をどう捉えるかがポイント。 3は、「十年後の未来」について書くので、時制を間違えないようにしたい。 	難
IV	選択・記述	リスニング	放送内容についての質問の答えを選ぶ問題、及び英語で答える問題。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

出典・資料 ※該当する場合記入

I: *International Migration* by Khalid Koser